

文字摺通信

第 113 号
2026年 6月 1日
発行:文字摺歴史文化社

黒巖山 満願寺 その2 指定史跡及び名勝の整備を

福島市文化財調査報告書第5集に載っている絵図を紹介します。

この図で注目すべきは、虚空蔵堂前と観音堂前にある“懸崖造”の舞台があることです。清水寺の舞台と同じ造りです。ここから見下ろす阿武隈川は、県指定名勝及び天然記念物の「阿武隈峡」です。狭い峡谷から出た清流は虚空蔵堂の下で広くなり、右折するところで流れが変わり、一部は澱み、一部は渦を巻きます。右下は『阿武隈川舟運図』の冒頭部分です。左から流れてきた水は虚空蔵堂の下でぶつかる様がよくわかります。



余談ですが、『阿武隈川舟運図』は十数mの巻物絵図ですが、舟運の出発点である福島河岸（県庁附近）からの書き出しではなく、この黒岩虚空蔵尊から始まります。しかも面白いことに、右図の左側の山は“起こし絵”のようになっています。なぜ、この地点から描かれているのか、“起こし絵”はどんな意味があるのか、謎です。



“懸崖造”の舞台は木製ですが、前号で紹介した写真を再掲しますと、虚空蔵堂前の舞台は石積みで金属の柵が作られています。

第5集掲載の写真がそのころのものならば、昭和30年代にはまだ舞台があったというこ